

地方気象台での防災・減災の取り組みについて

楠田雅紀（神戸地方気象台）

1 はじめに

気象庁では「気象情報や自然現象から、住民が自らの判断で状況に応じた的確な行動をとることのできるような風土・文化の醸成」に向けて、従前から普及啓発・利活用推進に関する取り組みを実施している。

- ・教育関係機関との連携、教育委員会や学校に対する防災教育支援の働きかけ
- ・日本赤十字社兵庫県支部（以下、日赤）、日本気象予報士会関西支部（以下、予報士会）、日本防災士会兵庫県支部（以下、防災士会）等との連携

2 気象庁ワークショップ

神戸地方気象台では、学校教育における防災に関する知識の普及啓発にも力を入れており、平成26年度からは、教育関係者や予報士会等と連携して、気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」に取り組んでいる。（以下、「気象庁WS」）

「気象庁WS」は経験のない大雨時に、地形や建物をはじめとする周辺環境、あるいは家族構成等により、身を守るために必要な安全行動が違ふことを理解し、段階的に発表される各種の防災情報を体系的に理解して入手し、早めの避難準備、安全行動をとることを想定する内容となっている。

将来を担う若い人達が、更に防災意識を高め、いざというときに実際の行動につながるよう、自らの問題として日頃からの備えや適時適切な防災気象情報の入手とその情報の活用について考えてもらうことが目的である。

この取り組みについては「中等教育学校における気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」試行的実施報告」（「天気」Vol.62-3）により報告した。

なお、「気象庁WS」の運営マニュアルは、学校授業等においても利用可能なように気象庁ホームページで公開している。

3 地域防災力アップの支援について

神戸地方気象台では、地域の防災について指導的役割を担う機関と連携・協力体制の構築に努め、

住民に対する安全知識の普及啓発活動等の裾野を広げる取り組みを行っている。

・教育関係機関

兵庫県及び神戸市教育委員会等と連携して、防災担当教員を対象とした研修会で、当庁作成のDVD「急な大雨・雷・竜巻から身をまもるため」の普及啓発に取り組んでいる。

「気象庁WS」については「モデル校」（神戸大学附属中等教育学校他）を選定して、取り組みを他校の教員や地域の防災リーダーに見学してもらい、利用拡大と内容の改善を図る試みを行っている。

・日赤

平成26年度から、防災教育に関する連携した取り組みを開始した。日赤が主催する研修会などに気象台から講師を派遣している。

平成27年度からは、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」についての勉強会や「気象庁WS」の見学等を通じて、さらに連携を図ることにしている。

・予報士会

兵庫県に在住の気象予報士と連携し、兵庫県民を対象とした出前講座等の実施に取り組むとともに、研修会を開催して効果的な普及・啓発を行っている。

・防災士会

防災士のレベルアップを目的に、兵庫県内の防災士を対象に、「レベルアップ研修」を実施し、住民に対する安全知識の普及・啓発用のプレゼン資料等を提供して、地域の防災力向上を目指している。

4 普及啓発について

平成23年3月11日の東日本大震災以降、気象庁では、防災教育や住民への普及啓発について、これまで以上に取り組んでいるが、リソース（人員、予算）に限りがある中、幅広く着実な成果を出していくには、関係機関とさらなる連携を図り、地域の防災リーダーや普及啓発の伝道師を育てていく必要がある。

引き続き、更なる地域防災力の向上に向けた取り組みを進めていきたい。